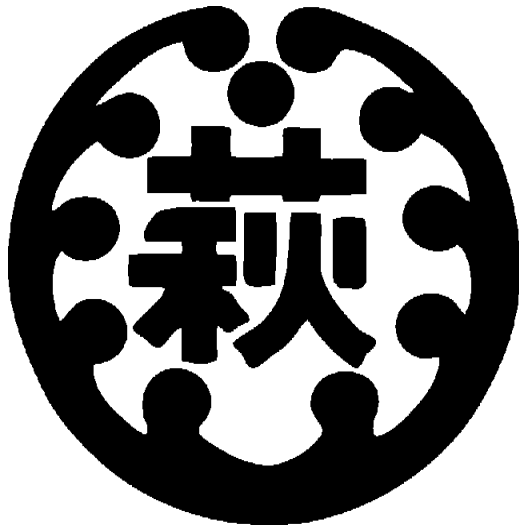


令和7年度
学校評価報告書



浜松市立萩丘小学校

1 学校教育目標と評価項目

(1) 学校教育目標

「いい顔 いい友 いい学校 ～かかわりの中で自分を磨く子の育成～」

本校では、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成することをねらいとして、第3次浜松市教育総合計画でも進められてきたキャリア教育を軸とした「目指す子供の姿」や、その姿に向かうための「付けたい力」、子供たちに分かりやすい言葉で指導をするための「合言葉」を設定している。

そして、それぞれの力を付けるための具体的な重点項目を設定し、教育活動のねらいと関連付けて指導を行った。

重点目標 目指す子供の姿	付けたい力 (キャリア教育の視点)	合言葉	重点項目
考える子	よりよく学ぶ力 (課題対応能力)	「考えよう」	・基礎基本の定着を図る「学力向上プロジェクト」 ・見通しをもたせる導入 ・視点を明確にしたかかわり ・学びを確かなものにする振り返り
やさしい子	かかわる力 (人間関係形成・社会形成能力)	「いっしょにやろう」	・心をつなげる「あいさつ月間」 ・自己肯定感を高める「ほめほめプロジェクト」 ・かかわり方を学ぶピア活動 ・互いの良さを認め合う授業でのかかわり互いの良さを生かす学級・学年の活動
チャレンジする子	ふみ出す力 (自己理解・自己管理能力)	「やってみよう」	・自分を高める目標を設定(体育科・音楽科など) ・自分たちで計画・実施する学級・学年活動 ・学んだことを生活の中で活用(道徳など)
自分らしく歩む子	なりたい自分を考える力 (キャリアプランニング能力)	「見つめよう」	・良い学級・学年のイメージをもたせるための活動の工夫 ・なりたい自分の姿や目標をもたせるキャリアパスポートの活用 ・自分を見つめるための継続的な振り返り

(2) 評価項目

①	子供は、学校教育目標「いい顔・いい友・いい学校」を意識して生活している。	⑦	子供は、苦手なことでもチャレンジしようとしている。
②	子供は、安心して学校へ通っている。	⑧	子供は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている。
③	子供は、課題に対して自分から考えようとしている。	⑨	子供は、目標や夢をもっている。
④	子供は、学校で学習したことを概ね身に付けている。	⑩	子供は、自分らしさを分かっている。
⑤	子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。	⑪	学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。
⑥	子供は、自分から進んであいさつをしている。	⑫	コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。

2 自己評価

11月に行った学校評価アンケートでは、子供545名・保護者452名から回答を得られた。「そう思う」「大体そう思う」と前向きな回答をした割合(%)を示し、結果を考察する。

(1) 「学校教育目標」との関連

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
①	子供は、学校教育目標「いい顔・いい友・いい学校」を意識して生活している。	R6	R7	R6	R7
		—	94%	—	85%

＜結果の考察＞

本年度、新たに、学校教育目標の達成度を評価するため、本項目を設定した。

【成果】

- ・目指すべき子供像や学校像がイメージしやすく、学校教育目標に親しみを感じている職員や子供が多くいる。
- ・学習指導や生活指導、行事や儀式など、学校教育目標に向かって教育活動を進めてきたことが、高い評価につながったと考える。

【課題】

- ・保護者の評価を高めたい。今後はより一層、行事やブログなどを通して学校活動を見える化し、保護者や地域にも、学校教育目標に向かって子供たちが成長している様子を届けたい。

(2) 「よりよく学ぶ力」との関連

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
③	子供は、課題に対して自分から考えようとしている。	R6	R7	R6	R7
		94%	92%	74%	80%
④	子供は、学校で学習したことを概ね身に付けている。	R6	R7	R6	R7
		92%	93%	89%	90%

＜結果の考察＞

- ・「学習したことを概ね身に付けている」に関しては、子供・保護者ともに評価が高まった。
- ・「課題に対して自分から考えようとしている」に関しては、子供の評価が2ポイント下がった。一方、保護者の評価は6ポイント上がった。

【成果】

- ・基礎基本の定着を図る「学力向上プロジェクト」として、水曜日にICTを活用した家庭学習を行い、授業で学んだことを復習して力を付けることができた。
- ・かわりを意識した授業づくりにより、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりする良さに気付くことができ、学習内容の定着につながった。

【課題】

- ・子供によっては、前向きに学習に取り組めなかったり、学習内容が定着しなかったりすることが見受けられた。子供たちが主体的に学習に取り組めるように、職員で研修を積み重ねていきたい。

(3) 「かかわる力」との関連

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
⑤	子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。	R 6	R 7	R 6	R 7
		96%	98%	95%	96%
⑥	子供は、自分から進んであいさつをしている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		81%	86%	74%	72%

＜結果の考察＞

- ・「友達を大切にして仲良く生活すること」に関しては、子供・保護者ともに評価が高まった。
- ・「あいさつ」に関して、子供の評価が5ポイントも高まっているのに対し、保護者の評価は2ポイント下がった。

【成果】

- ・かかわり方を学ぶためのピア活動を毎月行った。友達のよさや自分との違いに気付くことができるようになり、友達を大切にする意識を高めることができた。
- ・授業での互いの良さを認め合う態度や、互いの良さを生かす学級・学年の活動を進めることができた。
- ・心をつなげる「あいさつ月間」を設定し、昇降口や教室に明るいあいさつを広めることができた。

【課題】

- ・挨拶について、校内と比べて地域では自分から進んで挨拶をする子供が少ないことが分かる。菖っ子の良さとして、来年度も「あいさつ」は重点項目の一つとして取り組みたい。

(4) 「ふみ出す力」との関連

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
⑦	子供は、苦手なことでもチャレンジしようとしている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		82%	85%	68%	72%
⑧	子供は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		87%	92%	84%	83%

＜結果の考察＞

- ・「苦手なことでもチャレンジすること」に関して、子供が3ポイント、保護者が4ポイントとそれぞれ大きく評価が高まった。
- ・「自分で決めたことを最後までやりぬくこと」に関して、子供は5ポイントと大きく高まったが、保護者の評価は少し下がった。

【成果】

- ・子供が、自分なりの目標を立てて行事に取り組むことは、練習への意欲付けや本番での達成感に効果があった。
- ・各学級・学年において、自分たちで計画・実施する活動を目指し、目標に向かって最後までやりぬく場面を多くつくることができた。

【課題】

- ・学校での様子と家庭での様子には違いがあると思われる。学校での指導や支援で育てた意欲や力が、家庭での子供の様子から保護者の実感となることを目指したい。

(5) 「なりたい自分を考える力」との関連

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
⑨	子供は、目標や夢をもっている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		88%	92%	77%	76%
⑩	子供は、自分らしさを分かっている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		89%	90%	79%	81%

＜結果の考察＞

- ・昨年度に比べ、少しずつ評価が高まっている。
- ・特に、目標や夢をもつことに関して、子供の評価が4ポイントと大きく高まった。

【成果】

- ・良い学級・学年のイメージをもたせるための活動の工夫として、教室に掲示した学級目標や学年掲示板の活用など、子供たちが明確な目標に向かって努力する環境を整えることができた。
- ・なりたい自分の姿や目標をもたせるキャリアパスポートの活用により、自分を見つめ、これまで努力してきた過程や目標の達成などを実感させることができた。

【課題】

- ・子供と保護者との間での評価に差がある。子供が「自分らしさ」を大切にできるよう指導するとともに、学校での取り組みや子供たちの活動を積極的に保護者に発信していきたい。

(6) 全体にかかわる項目

＜アンケート結果＞

評価項目		子供		保護者	
②	子供は、安心して楽しく学校へ通っている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		93%	94%	92%	93%
⑪	学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		—	—	86%	88%
⑫	コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	R 6	R 7	R 6	R 7
		93%	97%	80%	88%

＜結果の考察＞

- ・どの項目も、昨年度に比べ、子供・保護者ともに評価が高まった。
- ・特に、コミュニティ・スクールに関する評価は、子供が4ポイント、保護者が8ポイントと大きく高まった。

【成果】

- ・職員が子供に寄り添い丁寧に指導をしていることや、学級・学年・異学年の友達とよいかかわりができていることで、子供たちは安心して楽しく学校に通うことができています。
- ・これまで培ってきたコミュニティ・スクールの取り組みの充実が子供や保護者にも実感でき、より一層教育活動の支えとなっている。

【課題】

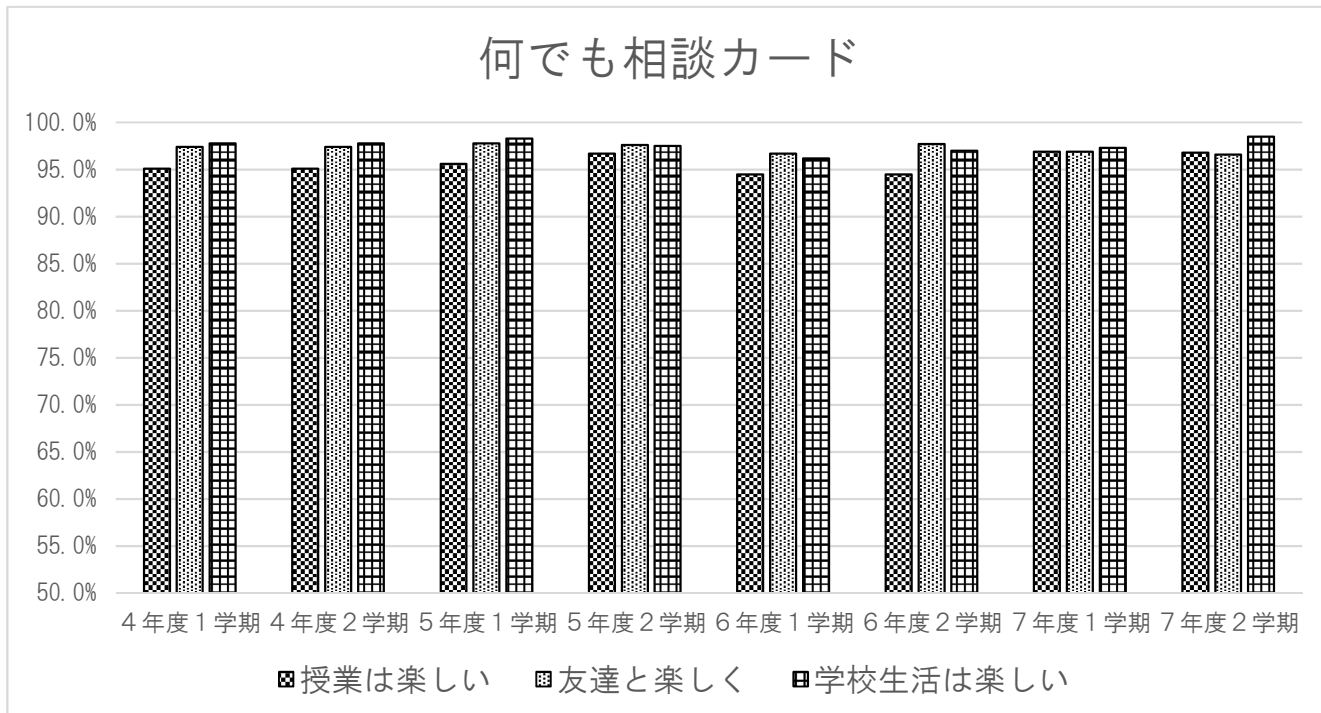
- ・学校からのより丁寧な説明を求めている保護者もいる。学校が伝えたいことを発信するだけでなく、保護者や地域が、今知りたいことや求めている情報を真摯に捉えた発信を心掛けたい。

3 学校生活・生徒指導について

(1) 「何でも相談カード」

「何でも相談カード」は、本校独自のアンケートで、数年前から続けている。記名式用紙に記入をしていく方法である。項目は、大きく3つ「授業は楽しいですか」「友達と楽しく生活できていますか」「学校生活は楽しいですか」となっていて、それぞれ「楽しい」「どちらかという楽しい」「どちらかという楽しくない」「楽しくない」の4択となっている。

集計は、「楽しい」「どちらかという楽しい」を合算している。



令和4年度からの推移をグラフ化したところ、全ての項目で肯定的な回答が95%を超えており、大半の児童が充実した学校生活を送っていることが見て取れる。特に今年度2学期の「学校生活は楽しい」という指標は顕著に向上した。これは「授業」や「友人関係」における満足度の充実に加え、創立90周年記念式典に向けた機運の高まりが、学校全体への愛着や満足度を押し上げた結果と考えられる。

ただし、一部の子供たちが「楽しくない」と評価しているのも事実である。そういった声にも真摯に対応をしていきたい。

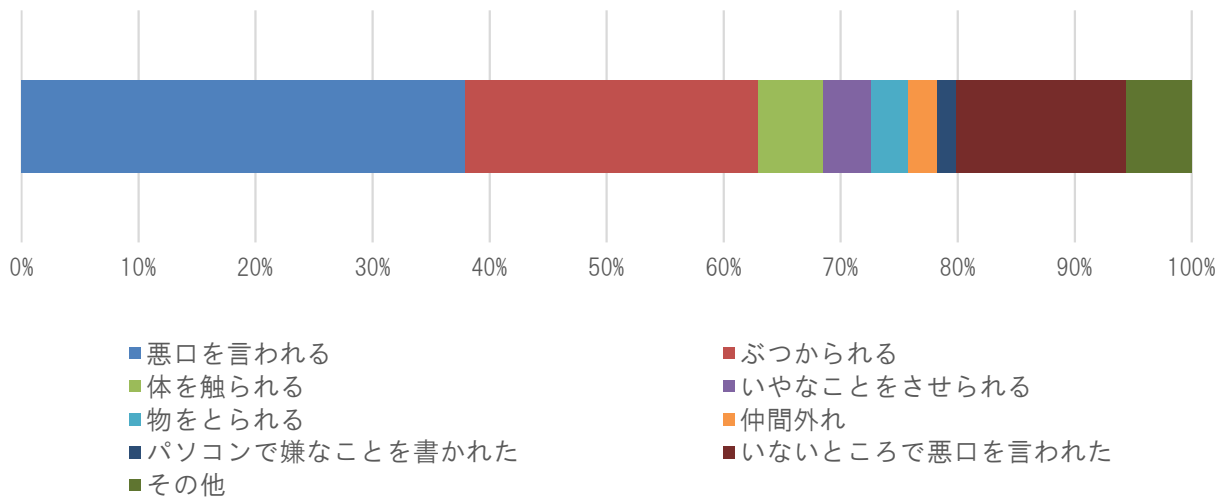
(2) 「はままついじめアンケート」

浜松市では、タブレット端末を用いた「はままついじめアンケート」を導入している。本校も学期に一度アンケートを実施し、子供への対応をしている。主に嫌なこととして「何を」「どこで」「いつ」されたかを聞くアンケートである。

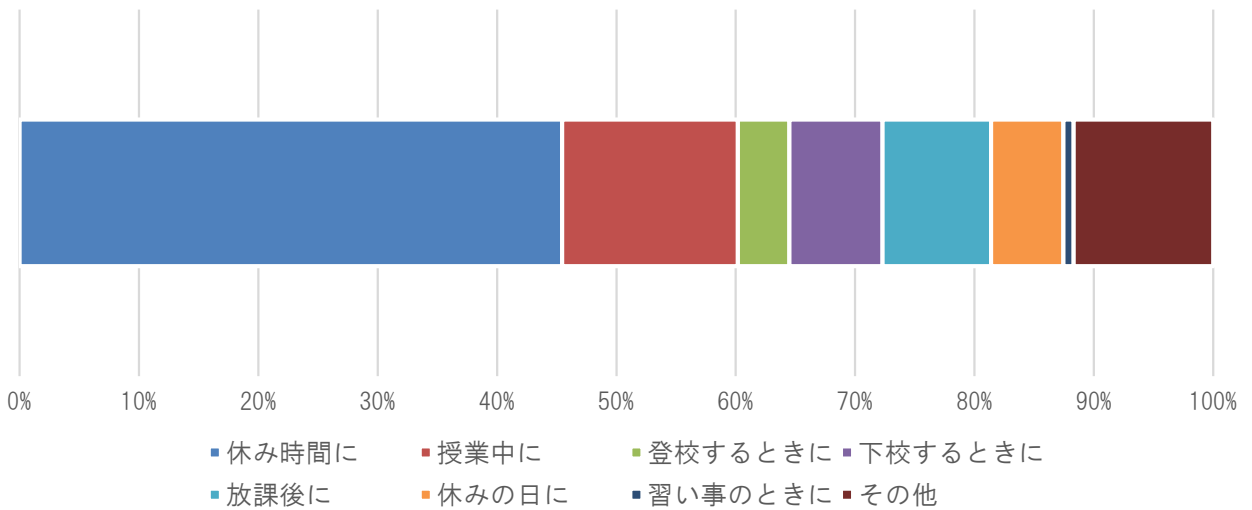
「何をされたか」「いつされたか」「どこでされたか」のグラフを見てみると、陰に隠れて仲間外れにするという感じではなく、直接的な言葉や行動が多い。放課後や休みの日ではなく、休み時間にされることが多いことも分かる。また、先生がいる・いないにかかわらず教室でされていることも分かる。ここまでが、学校全体のあらわれをグラフにしたものである。

このアンケートを受けて、担任は、気になる記述のある子供だけでなく、全員から話を聞いている。本校では、全体の傾向を鑑みながら、子供一人一人に目を配っている。今後も、保護者の皆様とも情報を共有しながら、子供たちの健やかな成長のためにお力になればと思っている。

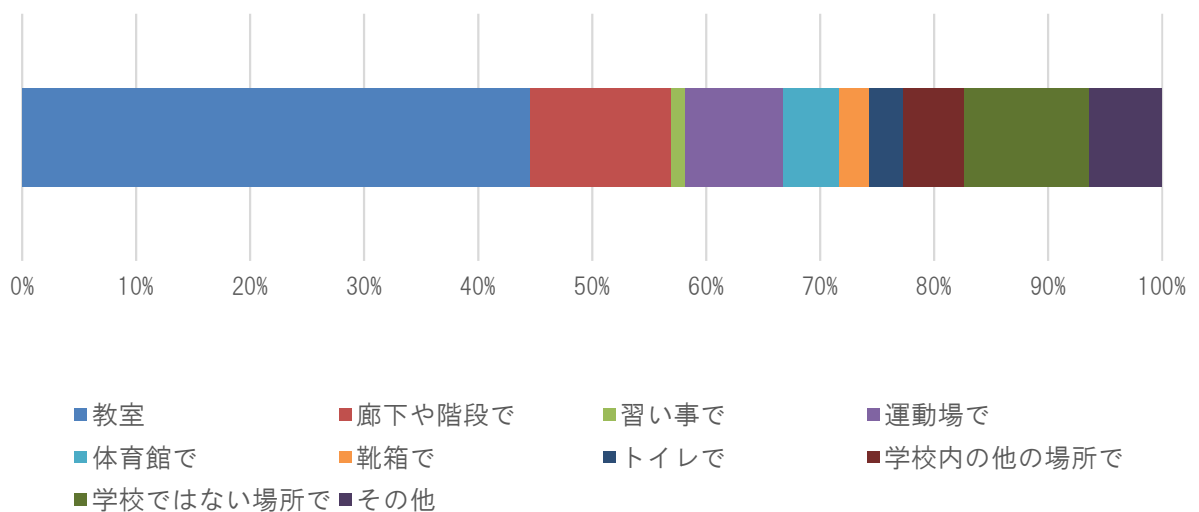
何をされたか



いつされたか



どこでされたか



4 学校関係者評価

2月16日（月）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・けがや子供同士のトラブル、いじめなど、保護者が学校に相談をすることが多いが、丁寧に対応をしてくれていることがありがたい。ただし、保護者の声を聞いていると、学校がきちんと説明をしているつもりでも、保護者の捉え方によっては食い違いが生じてしまっていることもあるようだ。学校からの説明する内容や伝え方にはこれからも注意が必要だと思う。
- ・学校評価の「挨拶」に関する項目について、子供の評価に比べて保護者の評価が低いとあった。確かに、旗振り活動をしている地域の方から「子供が挨拶をしてくれない」との声がある。しかし、子供たちは「知っている」人であれば明るく挨拶をすることができる。地域としても、子供たちにもっと顔を知ってもらおうとすることが大切ではないか。子供たちが「地域の方々は自分たちを守ってくれている」ということを理解できるよう働きかけていきたい。
- ・学校のホームページやブログでは、学校の様子がよく分かる。活動の内容だけでなく、先生方が撮る写真には、子供たちの素敵な笑顔がたくさんあるため、もっと保護者や地域の方々に見てもらいたいと思う。学校のホームページやブログがより身近に感じられることが大切ではないか。学校や子供の頑張りがより一層伝わるよう、さくら連絡網などを使って、保護者が閲覧しやすい発信を検討するとよい。

5 来年度に向けて

自己評価と学校関係者評価を基に、来年度のより一層の充実と課題に対する改善策を示す。

- ・職員が「学校教育目標」と「付けたい4つの力」を理解し、同じ方向を向いて指導することができている。また、「付けたい力」を子供たちに分かりやすい「合言葉」で表現し活用することは、子供も学校教育目標を意識するために有効であった。
- ・現状に満足せず、これからの子供たちに合った「目指す子供の姿」や「付けたい力」を常に見直し、改善していく必要がある。来年度に向け、学校教育目標の具現化に必要な内容を今一度見直し、より有効的な活用とさらなる充実に向けてチャレンジしたい。
- ・学校評価の保護者アンケートでは、個々の習熟度に応じた学習の進め方や宿題の分量など、保護者が「個に応じた指導」を求めていることが分かる。学習指導において、「個別最適な学び」を目指し、子供たちの力を高めていく指導方法や研修を模索していきたい。
- ・事故や生徒指導対応等が起きた際、校長のリーダーシップのもと、関係職員で早急に情報共有・役割分担し、「チーム萩丘」で対応をすることができている。子供に寄り添うことはもちろん、保護者や地域と丁寧に連絡を取り合うことにより、子供の安心した生活を保障することができている。今後も「萩丘小学校いじめ防止基本方針」に基づき、体制整備と組織的な対応で、いじめの未然防止や早期発見、適切な対処を徹底したい。
- ・コミュニティ・スクールの取り組みは、これまで培ってきたものの積み上げが子供・保護者に伝わり、満足度が高まっている。今後も、学校とコミュニティ・スクールが協働して、萩丘小の子供たちを育てていくことができるよう、連携を深めていきたい。